

日本語ボランティア活動は

地域で生活をしている日本語を母語としない人たちの中で、コミュニケーションの手段である日本語の学習を希望する人々にたいし、ボランティア日本語教室が大きな力になっていることは多くの機関が認めています。その活動を行うための主要な要素として支援者の確保があり、行政等の公的機関から日本語ボランティア団体まで多くの講習会・研修会を開催しています。

日本語を学ぶための場所の確保は、これらの人々を支援するためには欠かせない大きな要素であり、特にボランティア日本語教室を運営していく上では資金と併せて重要な課題になっています。

現在活動している団体は、毎週定期的に活動できる決まった場所を確保するために苦勞をしている団体が多いことです。

場所の確保はどうなっていますか

先にTNVN network news No 61, 62で報告した調査結果のうち活動場所についての結果と意見を取り上げます。〔ボランティア日本語教室ガイド2008東京〕冊子発行時の調査)

- ①常時確保がされているのは3割程度、
- ②一定期間ごとに会場の予約をしなければならないのが半数、
- ③更に抽選でやっと決まるところが2割近くです。

日本語ボランティア活動に対しての理解から場所が常時確保されている団体からは感謝の声がでていますが、一方で安定した場所確保が大変で、何とかならないかとの声が多くあります。

会場の多くが公的施設であることから

日本語学習支援には

安定した場所

がほしい。

公的使用が優先されていますが、日本語ボランティア活動についても、予約や更には抽選について、是非優先的に扱って欲しいとの願いが多くあります。

また予約や抽選の都合で学習場所が変更されると学習者が会場に辿り着けないことも少なくありません。

子ども連れで日本語学習を希望する人も多いが保育室・スペースのある場所は皆無に近く、日本語学習を断念している人たちも多くおられます。

学習に必要な教材等を常時保管できる場所の確保も切実です。これらの改善が望まれています。

一方で昨今の公的施設の民営化で使用料が高くなり支援活動が続けていけないのではとの心配もでています。

主な活動場所は

会場の多くは(a)区民センター、公民館、社会教育センター等 区市の公的施設が8割近くを占め、これらの場所の会場確保は、他の多くの活動グループ、活動サークルなどと同一な取り扱いを受け、(b)学校教室、体育館、図書館を使用できるところは残念だが5%と非常に少な

い。(c)肝心の国際交流協会は場所自体が限られて少なく、あとは(d)教会・民間施設を使用しています。

地域で支える

自治体・公的施設の関係者の中には積極的に、地域で生活する日本語を母語としない人への日本語学習支援活動を理解し・支援を進めているところも出てきましたが、多くはボランティア活動についての理解が進んでいないのが現状です。

日本語が母語でない人たちの日本語学習支援は、人材・場所・資金そして情報が相互にかみ合ってこそ目的が効果的に達成出来ます。

この活動を通して公的施設・学校(特に空き教室の使用)が外国人を含めた地域ぐるみの交流・コミュニケーションの場となることで、交流を通して培ったお互いの信頼関係が緊急時の対応にも大いに役立つものと考えます。

行政の施策の中で日本語ボランティアの活動する場所が安定的に確保できるよう、その実現に向けた対応を切に望みます。

(梶村勝利)

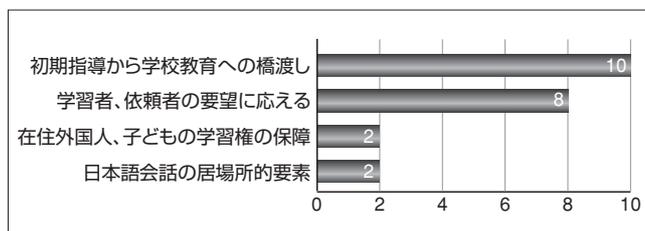
ボランティア日本語教室における 学齢期児童・生徒の学習支援の状況

ニュースレターNo.62 (6/13)「2008 TNVNの活動は」で、お知らせしましたボランティア日本語教室での児童・生徒の学習支援活動について、9月上旬にアンケートを実施しました。集計結果を2回にわたり報告します。皆様の活動のなかに活用していただければと考えます。

■ 調査対象期間 / 2007年9月～2008年8月
 ■ 調査対象個所数 (送付数) / 105
 ■ 回答回収数 / 55 ■ 回収率 / 52%
 ※回答数には、複数回答、無回答が混在しています。
 (岩佐幹彦)

問1 児童・生徒の受け入れにあたっての コンセプト (考え方)

あり=22団体 4項目に分類されました。



問2 児童・生徒 (学習者) の受け入れ数について

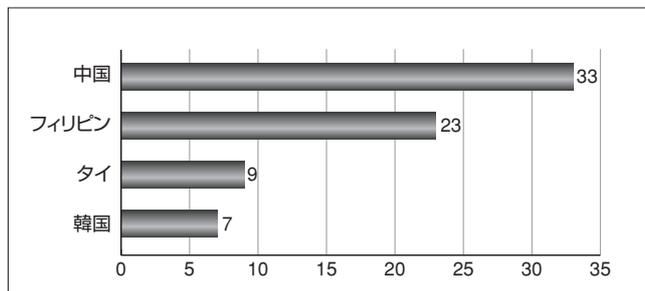
受け入れ数 = 465人 (41団体)



- ◆ 児童・生徒の学習支援を専門的に行っている団体に受け入れ数が多い
- ◆ 児童・生徒10人以上の受け入れは11団体

問3 児童・生徒の国籍内訳

(日本籍の場合は出身国名) (数字は団体数・複数回答)



問4 学習支援の曜日と時間帯

- ◆ 多い曜日は、学校が早めに終了する水曜、休日の土曜です。

- ◆ 平日午前は取り出し支援が多く、夜間に大人の教室が受け入れられている状況も窺えます。
- ◆ 他に夏休み、冬休み等も支援をしている団体もあります。

問5 児童・生徒の受け入れ対象種別

- ◆ 小学生、中学生が中心で、受験生は1/3の団体が受け入れています。

問6 学習支援の態様

- ◆ 多くは、個人対応です。

問7 学習支援の児童・生徒は、学校でいわゆる「取り出し授業」の対象ですか。

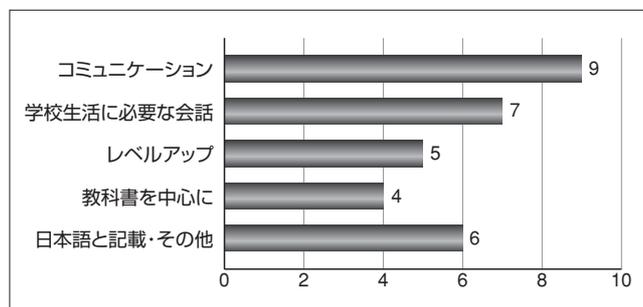
- ◆ 取り出し対象期間内の児童・生徒の受け入れ = 12団体
- ◆ 取り出し期間終了後の児童・生徒の学習支援を30団体が実施しています。

問8 教育委員会 (学校) から依頼されて「いわゆる日本語指導者 (日本語講師)」としてボランティアを学校に派遣していますか。

- ◆ 日本語指導者を派遣しているのは、5団体のみです。

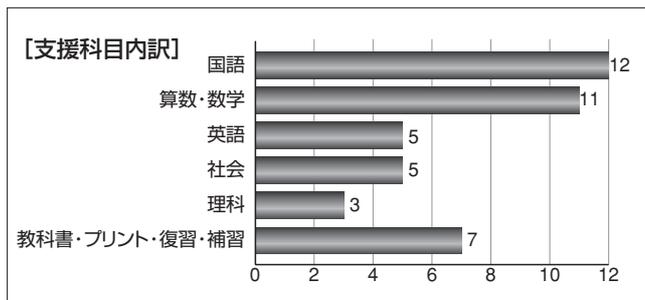
問9 学習支援の主な内容について

● 日本語学習支援 (回答31団体・複数回答)

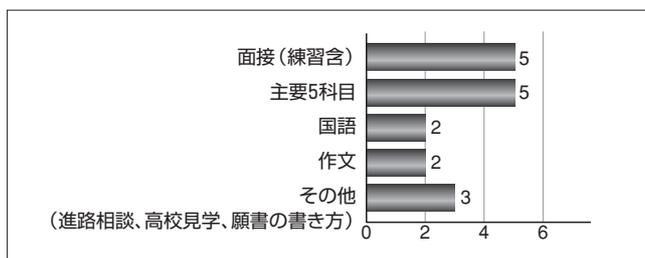


- ◆ 支援の内容を分類すると5項目になります。

●教科学習支援 = (回答21団体、複数回答)



●受験支援 = (回答6団体・複数回答)

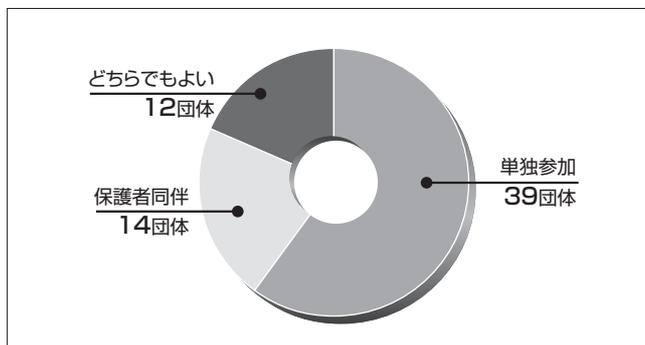


問10 使用教材について

- ◆日本語学習支援：37点あげられました。(複数回答) 学習者が持参する教材をはじめ、市販の学校用教材やテキストが中心で、その他漢字教材やネット教材などが使用されています。
- ◆教科学習支援：教科書が多く、オリジナルテキストや問題集、語彙集なども使用されています。
- ◆受験支援：教科書や過去問題集があります。

問13 児童・生徒の教室への参加態様について

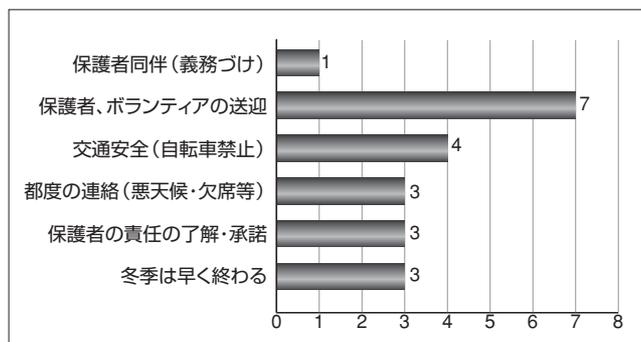
(数字は団体数、複数回答)



- ◆保護者同伴は、支援側にとって児童・生徒の安全面や、親と連絡を取り易いプラスの半面、子が親に依存し易い等のマイナス面の指摘もありました。

問14 児童・生徒の教室への単独参加の場合の

安全確保の留意点 (数字は団体数、複数回答)



- ◆安全対策の手段として、25項目の回答があり、保護者やボランティアの送迎が多数を占めています。

問15 児童・生徒の学習支援のなかで感じる

問題点と対応

- ◆28項目の意見・回答がありました。6つの事柄に分けられます。

1. 基本的な問題として

学習支援を行っている団体が少ない。初期段階での集中学習の重要さが認識不足である等の指摘があり、制度的に固定化された支援場所の設置を求める意見があります。

2. 児童・生徒への学習対応について

急激な日本語学習への動機付けやケアの難しさ、低学年児童・生徒の学習への集中力維持の困難さを指摘する一方、学習の動機付けや日本語力を高めるには時間と努力が必要との意見がありました。

3. 日本語会話の居場所として

児童・生徒の居場所として位置づけ、子どもの心を開かせることにポイントを置き、同じ出身国同士の友達づくりや、困ったときの相談に応じている団体もあります。

4. ボランティアスタッフの資質向上が望まれています

ボランティア不足から生じる負担増をはじめ、子どものテーマに対応できない、手探り等、スタッフの確保と質についての悩みが浮き彫りになっています。

5. 高校受験関連として

受験や進路については学校、家庭との十分な連絡や相談が重要とされています。

6. その他

宿題のフォローが多いことや、子どもに合ったテキストがないことが挙げられます。

(設問16~22は次号へ)

MIFA 15周年記念講演

私から見た不思議な日本語

概要

莫 邦富氏

日本語を目指すまで

文化大革命の下放により黒龍江省で5年弱、荒地の開墾をしました。外交部の通訳がロシア語ができるということでスパイとされて労働改造のため送られてきて私は男の監督役となり、放牧に出かけたある日、ソ連のことを聞きました。ロシア文学・芸術を語りながら男の川の向こうのソ連の方を見る目に光るものがあり、また私を見る目には哀れみが滲んでいました。狼狽した私は、国境を超える知識の翼を付けようと誓いました。これが外国語を勉強する動機の一つになりました。

また少年の時は詩が好きで詩集を出したこともあり、ラジオでその詩の朗読が放送されたこともあって、詩人を目指していましたが、若い時にしかできない詩作を目指すより、外国語を学んで詩の翻訳をしたいと考えるようになりました。帰省中の上海の書店で日本語ラジオ講座のテキストと出会い、五十音図で母音が五つしかないと分かりました。これなら習得は容易だ、世界第2の経済大国の言葉なのに学んでいる人は少ない、希少価値があると考え日本語を選び自習を始めたのですが、無理と分かり外国語大学に入学したのです。

深夜トイレの中で読んだ 日本の小説

文革時代、日本語専攻の私たちは指



莫邦富氏プロフィール：作家・ジャーナリスト。1953年中国・上海市生まれ。上海外国語大学日本語学科卒業後、同大学講師を経て、85年来日。著書：『新華僑』、『蛇頭』、『中国全省を読む地図』、『日中「アジア・トップ」への条件』、翻訳書：『ノーと言え中国』。

定の教科書等以外の日本のものは読めませんでした。私が最初に日本の小説を読んだ場所は、深夜の男子寮のトイレの中です。それは日本人の先生からひそかに借りた横溝正史の「悪魔が来たりて笛を吹く」の文庫本でした。怪しまれないよう日本語の教科書の中に小説を挟み、ばれた時の危険さから来る緊張のせいか、廊下から足音が聞こえるたびに、悪魔が本当に現れたような錯覚に襲われ、びくびくしました。

中国人にとって 不思議な日本語等

鯛が高級魚とされているのが不思議です。中国人は薄いピンクや薄い青色の魚は気味が悪いと食べず白身の魚だけを食べます。「腐っても鯛」という言葉は中国で該当するものは「やせて死んだ駱駝は馬より大きい」となり、事柄

を説明する場合、日本は魚、中国は家畜で表現することが多いです。日本の文化が「海洋文化」、中国が「牧畜文化」に由来するものと言えます。

「美」という漢字は「美しい」という意味で使われていますが、古い中国語では「おいしい」「よい」の意味が主だったようで、現在の中国語にも生き残っています。「美味」、「美食家」、「美餐」（おいしい食事）、「美事」（よいこと）、「美談」などです。「美」は「羊」と「大」で成り立っています。「羊を大きくすることは良いことだ」という発想が働いたのでしょう。

女性のきれいな肌を日本では「餅肌」と言いますが、中国は乾燥していて餅は直ぐ割れてしまいます。中国の詩人白居易は名作「長恨歌」の中で楊貴妃の美しい素肌を「凝脂」のようだと言いました。「凝脂」とは凝固した油脂のことで白くて柔らかい肌を形容するのに用いられます。

場内からの質問と回答の一例

Q 国士舘大学4年生：中国から来日して1年になり、ヒアリングが上達しているが会話の力が伸びない。

A 来日1年でそれだけ上手に話すのは私より上達が早い。日本人と会話するより50冊以上本を読みなさい。また2〜3冊翻訳しなさい。翻訳は一番正確な言葉を選ばないといけないので、大変勉強になり、ぐっと日本語が進歩しますよ。

—ひとつの方法—

東京日本語ボランティア・ネットワークは、各地での講座に協力しています。

参加したボランティアの方の話によれば、学習者の希望で一番多いのは「会話」とのことです。日本語ボランティア教室で、実際に「自由会話」の際に困ったことを挙げてもらい、話し合いました。

●●●
レベルの違う学習者が
一緒になったとき、
どうしましょう？

自分の受け持った学習者全員に満足してもらおうというのは、自然な気持ちでしょう。その「全員を満足させなきゃ」は、「学習者がやりたいと思っていることをやらなきゃ」という気持ちだと思います。学習者がやりたいと言う内容は様々です。そして当然、一人ひとりの日本語能力には差があります。そこで、どうするか、と悩んでしまうわけです。でも、教室での時間は限られています。その時間内にできること、そういう場所だからこそのことと考えた場合、それはコミュニケーション能力を育てることだということになるのではないのでしょうか。そのことを参加者全員に伝えた上で、「全員楽しめるような時間にするには、どうしたらいいだろう」と考えていけばいいのだと思います。ある意味、「レベルが同じ学習者」というのは存在しないわけです。例えば読むのは上手でも話すのは苦手な人と、その反対の人が一緒に話した場合はどうでしょう。ボランティアが思う以上に、学習者はお互いに刺激を受け、いい時間だったと思っているこ

とが多いようです。そういう場合、話題に提供する材料としては、生活の中で耳にする公共交通機関のアナウンスやコマーシャル、交通機関のポスターやお菓子のパッケージなどで見かける擬音語、擬態語などがお勧めです。また、不在配達通知や行政のお知らせ、子供を持つお母さんたちのグループなら、子育てに関係のあることや料理のことなども、楽しく会話ができ、役に立つ情報になるでしょう。

●●●
漢字圏、非漢字圏の人が
一緒になったときに困ります

これもよく出るご意見ですが、そういう場合「困る」のは学習者でしょうか、ボランティアでしょうか。漢字の言葉の方が分かりやすい漢字圏の人と、ひらがなを交えた、いわゆる和語の方がわかりやすい非漢字圏の人が会話をするとき、ボランティアが間に入って言い換えをする役を演じれば、会話は成立することが多いです。それによって、学習者同士も互いの日本語能力の長所を認めることができ、刺激されるからか、いい人間関係に発展していった姿をよく見ます。ボランティアはその場の会話を仕切る役ではなく、「調整役」と考えてはいかがでしょうか。

●●●
間違った文法、
言葉の使い方などの直し方、
直すタイミングは、
どうなのでしょう？

まず、大前提として、学習者がそれを直して欲しいと思っているかどうか、直すとすればどのタイミングで直して欲しいと思っているのか、聞けるのなら聞いた方がいいでしょう。ただ、相手の日本語のレベルによっては確認できないかもしれません。その時は相手の反応でこちらが感じ取るしかないでしょう。学習者によっては、間違いを直されることなく、とにかく話したいと思っている人もいますから。その場合は、直すのではなく、相手の言った間違いの部分を正しくして言い直すなどの方法を取ると、そのうち気がついてくれるかもしれません。

(翠)



—来室者のニーズに合わせて—
日本語で話してみませんか? いちごの部屋

東京YWCA武蔵野センター

いちごの部屋運営委員 浅原由美 (武蔵野市)

「日本語で話してみませんか? いちごの部屋」は、今年5月7日にYWCAの在日外国人支援活動の一つとして活動を開始しました。

武蔵野センターでは、1988年より11年間にわたり東京都の委託事業として中国帰国者のための日本語教室を運営していました。その後修了生との交流や日本語支援を目的とした活動を経て、地域の外国人を対象を広げることを検討し、「いちごの部屋」誕生に至りました。

「いちごの部屋」の由来は「一期一会」からですが、赤くて可愛い苺を連想するその語感も命名の決め手となりました。

約2年におよぶ準備段階では、近隣の国際交流協会や民間団体、在日外国人の方々、大学・難民支援関係者など多くの方々にご協力をいただきました。

「いちごの部屋」は、運営委員8名と基礎研修を修了し登録したボランティア18名で活動しています。活動日は水曜日の14時~16時、木曜日の10時半~12時半(木曜は女性対象)。毎月運営会を開き活動計画や問題点などについて話し合っています。

来室者の日本語力やニーズは多様です。私たちは、日本語をしっかりと学びたい/生活に根ざした日本語を知りたい/運転免許取得のための勉強をしたいな



ど、異なるニーズに対応していきたいと思っています。「いちごの部屋」のポリシーは、相手を理解し、共に学びあう対等な関係を築くことです。そして忘れてはいけないことはいつも「笑顔」で明るく接すること。実際、「いちごの部屋」では笑いが絶えません。また、来室者に共通しているのは、その真摯な姿勢です。

今後の課題は、支援を必要としている地域の在日外国人の方々に「いちごの部屋」の存在を知ってもらえるよう、より積極的な広報活動を展開していくことだと思います。

会員団体紹介

Nice to Meet You

「南多摩日本語の会」は、東京都の多摩市・日野市およびこの周辺の京王線に沿った地域で日本語学習を支援しているボランティア団体で、2001年に発足しました。現在会員数は外国人35名、日



nice to meet you

楽しみながら日本語学習に励んでいます

南多摩日本語の会

代表補佐 大宮司 弘昌 (多摩市・日野市)

本人40名ほど、教室は月・火・水・金・土に開催しています。

外国人の日本語レベル・目標はさまざまですが、当会では可能な限りそれに合わせて、原則マンツーマンの学習を行っています。

本来マンツーマンは自由度が高く効率的なはずですが、自由が過ぎてルーズとなり、教えることが苦痛となる場合もありました。お互いに楽しさを共有するにはどうしたらいいか皆で話し合い、会則を補充する形で「会員としての心得」

を作りました。これは例えば休む時には事前に電話で連絡するなど、常識的なことを整理・成文化したものです。

また心得には「教師は指導力を高めるように、常に努力しましょう」と記しました。これに関連して当会では「勉強会」を2ヶ月毎に開いています。会員が交代で日本語学習に関する話題提供者となり、続いて意見交換をします。外部から講師を招いて、開催することもあります。

当会では、ニュースレターを年4回発行しており、ハイキングなどのイベントも年4~5回開催しています。去る9月21日には秋のイベントとして「梨狩りと卓球」を楽しみました。

学習者の声

いつもクラスをたのしんでいます。本当にありがとうございます！

マリー・エレン (Marie-Helene) / フランス
 渋谷日本語グループ (渋谷区)

で、国際きぎょうストラテジーのコースで勉強しています。じゅぎょうは英語で、友達とも英語で話すので、日本語を勉強したり、話したりするときは好きくない。それで、このクラスで勉強して、先生や友達と話すのがうれしいです。

こんなボランティアの日本語クラスがあるのは、本当におもしろく、すごいと思います。日本語のような、がいこくの言葉を勉強できるのは、がいこくの文化を分かるのをたすけます。日本人たちとあうと、たとえば、アイディアとかいんしょうをこうかんできます。

いつもクラスをたのしんでいます。本当にありがとうございます！！

まず、このグループの先生と生徒のみなさま、本当にありがとうございます。はじめから、みなさまが、おもいやりの有るかんげいをしてくださいました。

私は、友達から、この日本語クラスのじょうほうをもらいました。そして今年の一月から、このボランティア日本語クラスにさんかしました。私は、まじめでリラックスなふんいきの日本語クラスにはいりたかった。みなさまは、本当にしんせつとしんぼうの人たちです。

はじめの時、私はぜんぜん日本語を話せませんでした。でも、みなさまからたくさんたすけてもらいました。そしてすこし日本語を話せるようになりました。今はまだしょしんしゃですけど、日本語でかんたんなコミュニケーションができます。

私は今一ツ橋大学院



ボランティアの中村芽衣さん(左) 学習者のMarie-Heleneさん(右)

ボランティアの声

上級クラス担当 中村芽衣
 渋谷日本語グループ (渋谷区)

「楽しく学ぶ」グループのモットーは、

「渋谷日本語グループ」でボランティアを始めて、もうじき丸5年になります。土曜日朝10時から集まってくる生徒さんたちは、文字通り世界各国の方達で、会社員、研修生、学生、等々、日本語の勉強だけでなく、交流やリラックスのためなど、それぞれの目的で参加されています。

グループのモットーは、「楽しく学ぶ」です。わたしたち教師には、授業が楽しくなるように教えることが求められますが、実際のところ、生徒さんから学ぶことも多く、自分自身でも授業を楽しみながらやっています。なぜ言葉を学ぶことが楽しいのかを考えると、一つには、母国語と外国語の言葉の違いを通して、その背景にある文化の違いを感じ

ることができるからではないかと思うのです。授業では、そのお手伝いができればいいと思います。

例えば、隣の家の人がお出かけのとき、「どちらへお出かけですか？」—「ええ、ちょっと」などという会話はよくあります。この「ちょっと」という返事は、いかにも日本人らしいと思いませんか？ また、「どちらへ」と聞いた人も、それほど正しい答えを求めて聞いている訳ではないので、「そうですね」などと返答することもあるでしょう。「ええ、ちょっと」—「あら、いいですね」。これで会話が成立するのは、日本人の、他人との微妙な距離の取り方が反映しているのかもしれない。

これからも、ひとりでも多くの生徒さんに、授業を通して日本語を学ぶ楽しさを伝えられるように、自分自身も学んでいきたいと思っています。



●TNVN事務局はTVACのロビーで活動が来ています●

TOP ページに「日本語学習支援には安定した場所がほしい」を記事にしました。

東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)のロビーや会議室が広く市民活動の場として解放され多くの市民団体やグループ・個人が利用しています。ロビーは会議机や丸テーブルが備えられ、利用者で一杯になることも少なくありません。3つの会議室は利用希望団体が多く、最近ではTNVNの定例作業はロビーで行っています。

TNVNも発足時から安定して事務局を置きTNVNのほとんどの活動を行っています。TVAC職員のご理解とご支援で気持ちよく

作業が行えるとともに、郵便物のメールボックスや事務処理の備品置き場所を融通してもらっています。事務局は毎週金曜日に開いていますので問い合わせ・相談・取材などの訪問者も気楽に来られます。スタッフと訪問者との間で情報交換や雑談で和やかなひとときも生まれています。こうしてこの場所が安定して使用出来るのがTNVN活動の大きな支えとなっていると改めて感じ入るところです。会員の皆様、飯田橋近辺にお越しの折りには気軽にお立ち寄り下さい。(K.K.)

■「ボランティア日本語教室ガイド 2008東京」をご活用下さい

「ガイド」をご希望の方は、頒布代金(1部700円)と送料を郵便局でお払込み下さい。

◎口座番号: 00100-1-719259

◎加入者名

東京日本語ボランティア・ネットワーク
なお、東京ボランティア・市民活動センター(TEL: 03-3235-1171)でもご購入出来ます。

冊子小包料金: 1部:290円、
2部・3部:340円、4部・5部:450円

■TNVNへの入会をお待ちしています

詳細はTNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円切手同封)

■ニュースレターに掲載する記事をお待ちしています

ニュースレターは3ヶ月毎に発行しています。団体・個人にかかわらず、日本語学習支援・日本語ボランティア活動に関する意見・紹介・情報などの記事を是非お寄せ下さい。掲載記事についてのご意見・ご希望も歓迎します。TNVN NL編集担当宛にお送り下さい。



●Column

❖ソウルから花嫁が来て水引草

ボランティアをはじめて16年になります。色々なお祝いに出会って来ましたが、ウェディングのことははじめてです。

いつの間に恋がめばえたのでしょうか!! と何かうれしいお話で、こちらドキドキしながらYさんの話を聞きました。結婚式はソウルと日本で2回すること、ソウルの式はすぐ目前でした。「来て下さいますか」よく考えもしないで「はい参ります」おちついてから、「行ってもいいのかしら?」ちょっと悩んでからやはり行きましょう。

当日はYさんのお母さんも緊張して私の手を握っています。私もうちにお嫁さんをもろう気分で落ち着きません。でもお母さんの耳元で「お嫁さん大事にして下さい」「息子に言って!!」「勿論ですがお母さんは姑でしょ、よろしく」「ああそうね。わかっています」お式の間、日本から行った、Yさんのお母さんと私、2人で1人みたいなことを言い合っていました。日本でのお式は11月23日勿論出席します。未

永く大切にしてお見守って行きます。(れいこ)

TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時: 毎週金曜日

第1、第3、第5 金曜日/午後2時~4時
第2、第4 金曜日/午後2時~6時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線一出口B2b)飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。

ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

●TEL: 03-3235-1171

(呼出: 金曜日活動時間帯のみ)

●FAX: 03-3235-0050

●E-mail: webadmin@tnvn.jp

●URL: http://www.tnvn.jp/

●郵便局払込

口座番号: 00100-1-719259

加入者名: 東京日本語ボランティア・ネットワーク

●新会員紹介

正会員

◇JCA玉川

賛助会員

◇NPO法人 日本文化体験交流塾

●会員数(2008年11月14日現在)

正会員: 86団体 協力会員: 36名

賛助会員: 6団体

●編集/岩佐 幹彦、大木 千冬、

岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利

床呂 英一、林川 玲子、福井 芳野

●レイアウト/鶴田 環恵